

令和5年度

宜野座村地域活動支援センター
アイリス

事業報告書

自：令和5年4月1日

至：令和6年3月31日

1. 事業の目的と方針

①目的：

宜野座村地域活動支援センターアイリスは、障がい者等が地域において自立した日常生活が営めるよう行政・医療・福祉・地域住民と連携し、当事者とその保護者の意思及び人格を尊重し、障がい者福祉の増進を図っていく。

②方針：

- 来所に限らず、電話、メール、訪問等で、生活や障がいに関する相談を受け付け、訪問等の適切な支援を行っていきます。
- 利用者一人ひとりの人格を尊重すると共に、障がい状況や発達段階を考慮しながら、生活や余暇の取り組みを通して、利用者の社会的活動の広がり自立への支援を推進します。
- 利用者が健康で豊かな社会生活を送れるよう行政、地域、その他関係機関と連携を図ります。
- 利用者の皆様の悩みや相談を受け止め、安心と癒しを提供することで来所しやすい環境を整備します。
- 創作的活動、生産的活動の機会の提供、社会生活との交流の促進、日常生活に関する指導、レクリエーション、余暇における支援を行います。

2. 令和5年度重点目標

- ①専門職員（精神保健福祉士）による、医療・福祉及び地域の社会基盤と連携強化のための調整、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発等の機能強化を目指しました。
- ②相談支援事業所と連携し、相談員・支援員によるアウトリーチ活動（訪問等）により、ひきこもりの方やご家族の支援を行ってまいりました。

3. 職員の配置状況

職種	常勤		非常勤	
	専従	兼任	専従	兼任
施設長		1		
精神保健福祉士	1			
支援員	1		1	

4. 利用者数実績

利用者数内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月
登録者数	12	8	8	8	8	8
実利用者数	2	3	2	2	4	3
利用者延べ数(人)	49	53	46	49	70	61

利用者数内訳	10月	11月	12月	1月	2月	3月
登録者数	8	9	9	9	9	9
実利用者数	3	3	2	3	2	3
利用者延べ数(人)	60	61	33	51	40	66

※利用者延べ人数内訳＝電話相談+来所（面談・相談）+訪問+同行

5. 個別支援実績

個別支援内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月
電話相談	23	28	25	25	30	37
来所(面談)(相談のみ含む)	18	14	13	16	32	15
訪問	8	11	8	8	8	9
同行	0	0	0	0	0	0

個別支援内訳	10月	11月	12月	1月	2月	3月
電話相談	38	39	19	30	21	38
来所(面談)(相談のみ含む)	13	13	9	14	11	18
訪問	9	9	5	7	8	10
同行	0	0	0	0	0	0

6. 基礎的事業実績

基礎的事業内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月
創作的活動	7	9	6	4	4	7
生産的活動	0	0	0	0	0	0
レクリエーション等社会との交流機会の提供	0	2	0	0	0	0
憩いの場(自主活動)	18	14	13	16	32	15
その他	3	1	3	3	5	4
その他報告	1	1	1	1	1	1

基礎的事業内訳	10月	11月	12月	1月	2月	3月
創作的活動	7	6	5	6	1	3
生産的活動	0	0	0	0	0	0
レクリエーション等社会との交流機会の提供	0	2	0	1	0	4
憩いの場（自主活動）	13	13	9	14	11	14
その他	4	0	3	4	4	2
その他報告	0	0	0	0	0	0

7. 機能強化事業実績

機能強化事業内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月
他の事業所連携	13	9	7	11	5	8
担当者会議	0	0	0	0	0	0
職員研修	1	1	2	1	0	0
ボランティア普及啓発	0	1	0	0	0	1
会議等	0	0	2	0	0	0
調整会議	0	0	0	0	0	0

機能強化事業内訳	10月	11月	12月	1月	2月	3月
他の事業所連携	12	11	6	4	8	2
担当者会議	0	0	0	1	0	1
職員研修	1	1	1	0	0	0
ボランティア普及啓発	0	0	0	0	0	0
会議等	2	0	0	0	0	0
調整会議	0	0	0	0	0	0

8. その他実績

その他内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月
利用者希望見学	1	0	0	0	1	0
ICT 機器による支援	0	0	0	0	0	0

他の事業所連携	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者希望見学	0	0	0	0	0	0
ICT 機器による支援	0	0	0	0	0	0

9. 評価

①効果

令和5年度においても、個人の選択を尊重し、住民の主体的な取組みをベースとした対応を重視しました。特に令和5年度注目する点としては、保護者からの要望で、村行政の決定により児童の受入れも行われました。

又、今年度は、猛威を振るっていた新型コロナウイルス感染症が5月から2類相当から5類相当に移行しました。それにより、感染症予防は継続しながらも積極的な活動内容を検討し、実施してきました。

具体的には、施設内外での活動の前後における利用者と職員の検温・手指消毒・手洗い・マスク着用の徹底、施設内の消毒・換気等の対策を行いつつ、来所・訪問・行事等も徐々に実施してきました。それにより、利用者の居場所づくりとしての来所も可能となり、アウトリーチや訪問等による対面の支援や、利用者の状態把握も出来るようになりました。

今年度の事業の詳細としては、施設外活動として、買物支援、ピクニック、クリスマス会、名護桜祭り見学、社協感謝に集い、つつじ祭り見学等を行いました。そして、施設内で実施した活動としては、調理実習、7月遊びぬ集い参加、クリスマス会等を行いました。

今後も、感染症等の状況を注視しつつ、当施設の利用のニーズがさらに高まるような福祉的支援・行事・活動等を模索・実施しながら、関係機関と連携し、地域福祉の推進を図っていきたいと考えています。

②課題

- ・利用者増の伸び悩み
- ・利用ニーズ把握の難しさ
- ・個人情報制限による連携の難しさ
- ・センター活動の形骸化（生産活動等）

10. その他

① 事業における環境整備等について

- コロナ感染症予防の徹底の為に、施設内にアルコールを設置。また、利用者の送迎後、施設内に入る際、アルコール消毒及び非接触型の体温測定器による体温測定を実施している。
- 毎月1回定例会議を開き、1ヶ月の振り返りと事例検討、各職員の業務スケジュール及び業務に関する内容についての情報共有等を行い、翌月の支援計画、行事等について話し合い、チームとしての活動を意識している。
- 業務日誌を、所長（施設長）・局長・会長へ回覧し、報告・連絡を徹底。
- 新規通所利用者への説明、約束書類の活用。
- 毎月1回のミーティングを実施し、事業内容の改善や業務上の進捗状況の確認及び振り返り等を行っている。